

# 環境経営の推進

## 「環境ビジョン2020」の制定(2020年のあるべき姿)

地球が微笑むものづくり



当社環境マスコット

当社は、グループミッション「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」の下でKawasaki事業ビジョン2020を策定し、あわせて環境と経営の一体化の観点から環境に対する2020年のあるべき姿を目指して、「環境ビジョン2020」を新たに策定しました。

当社が定めた環境憲章の環境基本理念に基づき、環境ビジョン2020では「低炭素社会の実現」「循環型社会の実現」「自然共生社会の実現」という3つの社会の実現と、これらを

実現するための土台となる「環境マネジメントシステムの確立」の4項目を基本指針とし、持続可能な社会への貢献を目指していきます。

そのビジョンの実現に向けて、三ヶ年ごとに「環境経営活動基本計画」を定めており、2010年度からの三ヶ年を第7次環境経営活動基本計画期間として目標を設定しています。

## 環境経営の流れ



## 環境憲章 1999年制定

### 環境基本理念

川崎重工グループは「ものづくり」を通じて社会の発展に寄与することを基本に据え、「陸・海・空にわたる基礎産業企業」としてグローバルに事業を展開する中で、地球環境問題の解決を図るため、「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」および「自然共生社会の実現」を目指し、環境に調和した事業活動と地球環境に配慮した自社製品・サービスを通じて、社会の「持続可能な発展」に貢献します。

### 行動指針

- 地球環境問題は、人類共通の重要課題と自覚し、環境との調和を経営の最重要課題の一つとして、自主的・積極的にグローバルに取り組む。
- 生産活動において、省資源・省エネルギー・リサイクル・廃棄物の削減に取り組み、環境への負荷の低減を推進する。
- 製品企画、研究開発、設計段階において、資材の購入、製造、流通、使用、廃棄の各段階での環境負荷をできる限り低減するよう配慮する。
- 事業活動による生態系への影響の最少化を図るとともに、生態系の保全に積極的に取り組む。
- 地球環境問題解決のために環境保全、省エネルギー、省資源に有効な新技術・新製品を開発し、社会に提供する。
- 環境関連の法律、規則、協定および関連業界の自主行動計画等を遵守するとともに、必要に応じて自主管理基準を設定し、一層の環境管理レベルの向上に努める。
- 環境教育・広報活動を通じ、全従業員の地球環境問題への意識の高揚を図り、一人ひとりがライフサイクルの見直しや社会貢献活動への参加を促進する。
- 環境保全活動に関する環境マネジメントシステムを構築し、定期的に環境保全に関する会議を開催し、見直しを行い、環境保全活動の継続的改善を図る。

## 環境ビジョン2020

エネルギーを無駄なく使用する製品とものづくり

資源を無駄なく使用するものづくり

地球環境に調和したものづくり

環境マネジメントシステム(EMS)の確立



### 3つの切り口から持続可能な社会の実現に向けて

#### 低炭素社会の実現

エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりで、グローバルに地球温暖化防止に貢献

##### ■ 取り組みの視点

世界各地で地球温暖化によると考えられる大規模な気候変動が発生しており、この地球全体の持続可能性に関わる問題に対して、当社の事業活動で発生する温室効果ガスを削減するとともに、温室効果ガスの発生を抑制する製品・サービスを通じて低炭素社会の実現に貢献していきます。

##### ■ 2020年の姿

- ①2020年の温室効果ガスの排出量を、国の目標に合わせて削減している。
- ②エネルギーを有効に利用する製品・サービスを顧客に提供し、地球規模で温室効果ガスの排出を削減している。
- ③生産過程や物流過程における省エネルギーを推進し、温室効果ガスの排出削減を行っている。

#### 循環型社会の実現

資源を無駄なく利用するものづくりで、有限な資源を大切に活かし切り、循環させる

##### ■ 取り組みの視点

現在、世界の人々の生活を支えている資源の消費量は、地球の自然から生産される量を超えています。当社は地球の限られた資源を大切に活かし切り、再使用、再資源化する事業活動・製品開発に取り組み、循環型社会の実現に貢献していきます。

##### ■ 2020年の姿

- ①資源を有効に利用する設計を推進し、製品の軽量化や耐久性・リサイクル性などの向上を推進している。
- ②生産活動での3R(廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化)を推進し、全工場のゼロエミッションを達成している。
- ③すべてのPCB 廃棄物とPCB含有機器の適正処理を完了している。

#### 自然共生社会の実現

地球環境に調和したものづくりで、環境負荷を下げ、生態系の保全に貢献

##### ■ 取り組みの視点

地球環境を形成している生態系は、生物の多様性によって維持されています。生物多様性は、食料や自然資源、気候の調節や物質循環・浄化といった自然の恵みを提供します。当社の事業活動による環境への負荷を低減することはもちろん、製品・技術によって環境汚染の防止や生態系の保全に貢献していきます。

##### ■ 2020年の姿

- ①大気汚染や水質汚濁を防止する製品・サービスを顧客に提供し、環境の改善や生態系の保全を推進している。
- ②製品への化学物質の使用を削減するとともに、生産活動での化学物質の使用を削減している。
- ③地域の森林保全活動など、生態系の環境を保全する活動に協力している。

## 環境経営の基盤づくり

### 環境マネジメントシステムの確立

#### 環境ビジョン2020を実現する環境経営の基盤づくり

##### ■ 取り組みの視点

持続可能な社会の実現を目指して、環境に調和した事業活動と地球環境に配慮した自社製品・サービスを通じて、世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献していきます。

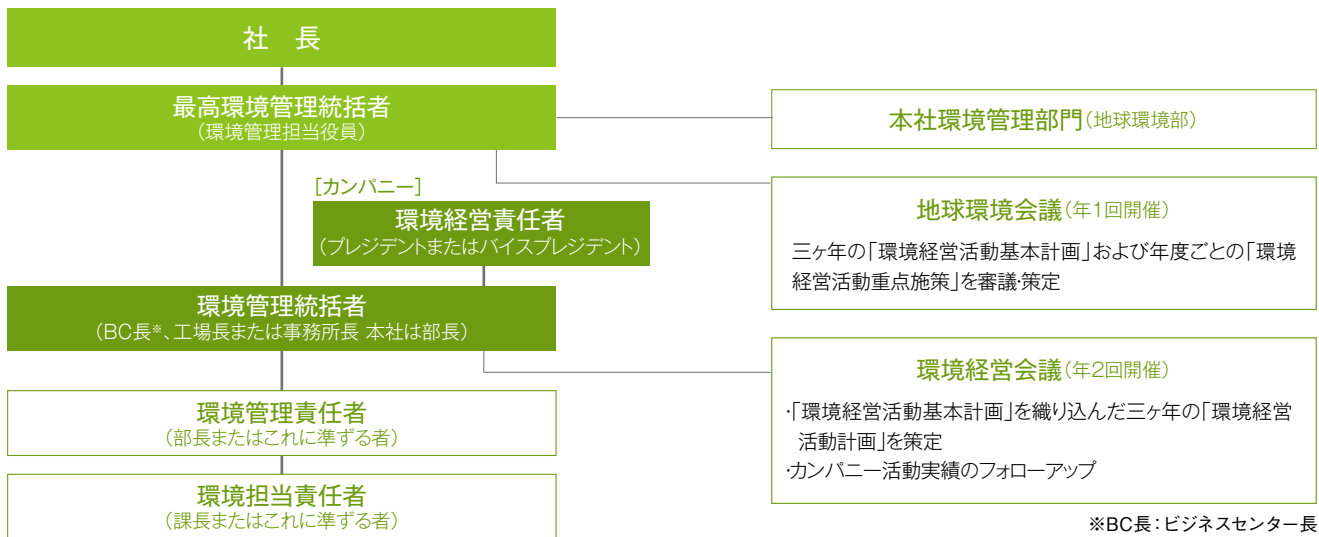
##### ■ 2020年の姿

- ①国内外のすべての連結子会社が環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、グループ全体で環境経営を推進している。
- ②環境法令を遵守し、定期的な遵守状況のフォローを行っている。
- ③社内外へ環境情報を発信し、双方向の対話を持ちながら環境保全活動をしている。

## 環境管理組織

当社は、最高環境管理統括者（環境管理担当役員）を選任するとともに、最高環境管理統括者を議長とする「地球環境会議」において、さまざまな重要事項を審議・策定しています。また、策定された環境経営活動基本計画をそれぞれの事

業部門が主体的に活動に展開できるよう、各カンパニーの組織に対応して、環境経営責任者、環境管理統括者、環境管理責任者、環境担当責任者を選任し、全員が一丸となって環境への取り組みを推進できる組織体制を確立しています。



## 第6次環境経営活動基本計画の実績と評価

評価：◎…達成 ○…達成率70%以上 △…達成率70%未満

第6次環境経営活動基本計画（2008～2009）	活動実績	評価
<b>環境経営 川崎重工グループ全体として社会的信頼性を高める環境経営の推進</b>		
1. 短計に織り込んだ環境経営計画のフォローアップ ①温室効果ガス排出量削減に向けた取り組み ・総量削減に向けた取り組み ・原単位指標に基づく排出量削減 2007年度基準で2008～2012年度の平均原単位10%削減	①温室効果ガス排出量削減に向けた取り組み ・総量削減に向けた取り組み 2009年度の総排出量は、2008年度比19.3%減 ・原単位指標に基づく排出量削減 2009年度の前年度は、2008年度比7.7%減 ・国内排出量取引制度への参加による削減活動	○
②環境リスクの低減のための環境関連対策の設備投資	②環境リスクの低減のための環境関連対策の設備投資 ・CO <sub>2</sub> 削減・環境保全・化学物質削減の設備投資計画のフォロー	◎
③PCB処理計画の策定とフォロー	③PCB処理計画実施状況のフォロー	○
<b>2. 環境リスクマネジメント</b>		
①川崎重工グループにおけるEMSの構築	①川崎重工グループにおけるEMSの構築 ・国内関係会社・海外重要生産拠点のEMS構築 ・環境データの精度向上と収集範囲拡大に向けた検討 ・関係会社のCO <sub>2</sub> 排出量実績調査開始	○
②生産・環境設備のリスクレビューによるリスク管理	②環境リスクレビューに基づいた生産・環境設備の潜在リスクの洗い出し	○
③環境危機管理体制の確立	③環境危機管理体制の確立 ・CSR推進体制に基づいた全社危機管理体制との連携強化	◎
④環境関連法規、協定、届出等の法令遵守の徹底	④環境関連法規のフォローアップ ・環境法令等遵守状況調査委員会の活動	◎
<b>環境配慮製品 環境負荷低減に資する技術・製品を通じて社会の「持続可能な発展」に貢献</b>		
<b>1. 製品ライフサイクルにおける環境負荷低減に向けた取り組み</b>		
①製品ライフサイクルにおける環境負荷低減評価 （使用段階のCO <sub>2</sub> 、SOx、NOx等）	①主要製品のライフサイクルにおける環境負荷低減について、 社内の評価法を検討	△
②化学物質の低減に向けたグリーン製品の提供拡大 ・製品構成のグリーン化に向けた設計・調達指針策定	②グリーン製品の公表ならびに類似製品への水平展開 ・法規制対応の徹底および自主的取組の推進（RoHS、REACH等）	△
<b>環境配慮生産 生産効率を考慮した生産活動を通じた環境負荷を低減する取り組み</b>		
<b>1. 生産活動における環境負荷低減</b>		
①原単位指標による廃棄物総排出量削減の取り組み	①原単位指標に基づく排出量削減 ・2009年度の総排出量は2008年度比17%減	○
②化学物質の削減に向けた取り組み ・VOC排出量、六価クロム、鉛取扱量等の削減	②化学物質の削減に向けた取り組み ・2009年度の主要VOC（トルエン・キシレン・エチルベンゼン） 排出量は2008年度比約3%減 ・2009年度の鉛取扱量は2008年度比約33%減	△
<b>環境コミュニケーション ステークホルダーとの「相互信頼」の向上に向けた取り組み</b>		
<b>1. 社内環境教育・啓発活動</b>		
①IT活用による環境教育システムの運用・展開	①グループ内環境教育の展開 ・環境eラーニングを関係会社へ展開 ・パソコン非所有者への教育推進	○
②川崎重工グループ従業員への環境啓発活動の継続	②川崎重工グループ従業員への環境啓発活動 ・環境ニュース発行等 ・兵庫県「企業の森づくり」活動への参加	◎
<b>2. ステークホルダーへの情報開示</b>		
・環境データの情報開示充実化 ・政府、地方自治体の環境活動への積極的な協力	・環境・社会報告書の発行 ・社業や地域活動を通じた社会貢献活動	◎

# 第7次環境経営活動基本計画および2010年度の重点施策

環境ビジョン2020のスタートとなる第7次環境経営活動基本計画(2010~2012年度)と2010年度の重点施策を定め、ビジョンの実現に向けて取り組んでいます。

## 第7次環境経営活動基本計画の主な施策

### ■ 地球温暖化対策

自らの生産活動から発生する温室効果ガスについては、総量削減を基本としながら、生産性向上を目指した指標である原単位目標と合わせて目標達成に向けた活動を実行します。

### ■ 廃棄物削減活動

工場の特性に合わせた活動を推進するとともに、排出量上位3物質(金属くず・廃油・木くず)の削減、省資源・3Rの推進などについてはグループ全体で取り組んでいきます。

### ■ 化学物質削減活動

全社的な削減活動の対象として、主要VOC、ジクロロメタン、有害重金属について事業所ごとに目標を設定し、設計・生産両面から削減活動に取り組んでいきます。

### ■ 環境経営の基盤づくり

・グループ全体で環境マネジメントシステム(EMS)を構築することを目指しています。  
・環境トラブルの未然防止のために環境リスクマネジメントや従業員の環境教育に取り組んでいきます。

第7次(2010~2012年度)環境経営活動基本計画	2010年度の重点施策
<b>低炭素社会の実現 エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりで、グローバルに地球温暖化防止に貢献</b>	
<b>地球温暖化対策</b> ①自らの生産活動に伴うCO <sub>2</sub> 排出量の削減 ・ 全社省エネ活動を推進するためCO <sub>2</sub> 見える化 ・ 検証の仕組みづくり ・ 全社CO <sub>2</sub> 削減対策(省エネ設備投資) ・ 特定荷主として物流における省エネ推進 ②当社の製品・技術による排出量獲得 ・ 当社の製品・技術による国内外の排出量獲得(CDM等)の仕組みづくり ③取引市場からの排出量購入 ・ CO <sub>2</sub> 削減目標未達成の場合の措置 ④寄付行為等による排出量獲得 <b>全社目標</b> 2007年度を基準とし、2012年度までに2008~2012年度の平均排出原単位(=CO <sub>2</sub> 排出量/売上高)10%削減	<b>地球温暖化対策</b> ①自らの生産活動に伴うCO <sub>2</sub> 排出量の削減 ・ CO <sub>2</sub> 排出の見える化・検証の仕組みづくり(改正省エネ法への対応含む) ・ 全社CO <sub>2</sub> 削減対策(省エネ設備投資) ・ 各部門の自主削減活動の強化と計画のフォロー ②当社の製品・技術による排出量獲得 ・ 国連CDM等によるCO <sub>2</sub> 削減事業については当該部門の活動を側面支援 ③取引市場からの排出量購入 ・ 削減目標未達成成分の購入費用の負担検討 ④寄付行為等による排出量獲得 ・ 森林保全活動、グリーン電力の活用等の調査
<b>循環型社会の実現 資源を無駄なく利用するものづくりで、有限な資源を大切に活かし切り、循環させる</b>	
<b>廃棄物総排出量削減に向けた取り組み</b> ①省資源、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進 ②ゼロエミッション活動、リサイクル率の向上 <b>全社目標</b> 2002年度を基準とし、2012年度までに排出原単位(=廃棄物総排出量/売上高)を12%削減、ゼロエミッションの維持 PCB廃棄物の適正処理計画の策定とフォロー	<b>廃棄物総排出量削減に向けた取り組み</b> ①廃棄物の排出量上位3物質(金属くず・廃油・木くず等)の削減活動 ②省資源、3Rの推進 ③ゼロエミッションの維持・向上 ④電子マニフェスト導入の推進 PCB廃棄物の適正処理計画の策定とフォロー ①JESCO委託処理のフォロー ②低濃度PCB含有機器の処理動向と台数のフォロー
<b>自然共生社会の実現 地球環境に調和したものづくりで、環境負荷を下げ、生態系の保全に貢献</b>	
<b>化学物質削減に向けた取り組み</b> ・ 削減目標設定と活動推進(設計・生産両面からの取り組み) <b>全社目標</b> 管理対象の化学物質について、2003~2005年度平均を基準とし、2010~2012年度の削減目標を設定 <b>製品・技術を通じた環境貢献</b> ①製品ライフサイクルでの環境負荷低減に向けた取り組み ・ 製品ライフサイクルアセスメント実施に向けた対応基盤の整備 ②製品のグリーン化・製品に対する環境配慮の推進 <b>生物多様性への影響低減と保全</b> ・ 生物多様性の行動指針の策定と保全の推進	<b>化学物質削減に向けた取り組み</b> ①第7次計画における削減対策強化部門の重点フォロー ・ 使用状況を把握・整理し、課題を明確化して目標設定 <b>製品・技術を通じた環境貢献</b> ①製品ライフサイクルでの環境負荷低減に向けた取り組み ・ モデル製品を選定し、評価手法検討 ・ 製品・技術を通じた環境貢献の情報発信 ②製品のグリーン化 ・ 法規制対応の徹底(RoHS指令、REACH規則等) ・ グリーン調達推進(グリーン購入比率の設定と達成施策) <b>生物多様性保全への取り組み</b> ①工場内の取り組み推進
<b>環境マネジメントシステム(EMS)の確立 環境ビジョン2020を実現する環境経営の基盤づくり</b>	
<b>川崎重工グループにおけるEMSの構築</b> <b>全社目標</b> 2012年度までに国内および海外重要生産拠点である連結子会社のEMSの構築を完了 <b>環境法令等遵守の徹底</b> ・ 環境事故等の再発防止 <b>環境コミュニケーションの推進</b> ・ すべてのステークホルダーとの環境対話の推進	<b>川崎重工グループにおけるEMSの構築</b> ①国内および海外連結子会社のEMS構築計画の策定と推進 ②グループ全体の主要環境データ収集(エネルギー、廃棄物、化学物質等) <b>環境法令等遵守の徹底</b> ①環境法令等遵守状況調査委員会の活動 ②環境法令改定等のフォローと全社展開 <b>環境コミュニケーションの推進</b> ①川崎重工グループ従業員への環境啓発活動(環境教育) ②社内外への環境情報の発信(環境ニュース、CSR報告書の発刊等) ③企業の森づくり活動